

[長崎県病院企業団通信]

ふくよか



2019秋号

■長崎県病院企業団本部
■令和元年10月発行



目次 CONTENTS

p2.....**企業長より**

「病院企業団は、次の10年をどう生き抜くか」

p4.....**特集① 外国人技能実習生**

上五島病院にミャンマーからの実習生が
来られました!

p6.....**郷診郷創**

壱岐病院の取組について

p7.....**特集② 長崎県地域医療研究会**

地域医療研究会の模様をお届けします。

p8.....**Break Time**

「A4のお話」

vol.
21



令和の時代になって半年が過ぎました。

平成最後の10年間は、企業団の最初の10年間でもありました。長崎県病院企業団は2009年(平成21年)4月に設立され、今年1月に設立10周年の記念祝賀会、2月には記念座談会を終えました。企業団病院を設立した経緯や苦労話など、多くのことが整理され、その記録が後世に残されることになったのは良かったと思います。この事業に参加し、整理をしていただいた関係者に感謝する次第です。

■平成時代の医療の動き

平成時代の前半は、古い日本の医療体質が崩れ去り、医療事故対応とその防止、良質な医療とは何かという大きな課題を解決するためのシステムづくりが行われてきました。日本医療マネジメント学会が発足したのが平成10年です。さらに、「高度医療の追求だけではなく、これまで行われてきた一般的な医療について、いかに患者さんに満足してもらえるかを追求することが、良質な医療につながる」という考えが、その頃から徐々に定着してきたといえます。

患者さんに満足してもらえないような医療とは何かを追求していくうちに、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、医療事故対応などが如何にないがしろにされていたかということが



企業長より
21

病院企業団は、 次の10年を どう生き抜くか

企業長 米倉 正大

わかり、根本から見直されていきました。そしてチーム医療でなければ、これらの対応は難しく、各職種がよりプロフェッショナルな意識を持ち、患者さんを中心とした医療が行われるシステムづくりが、平成時代の後半で作りに上げられました。

また、これと同時に、病院運営の効率化と経営の安定化を追求するためのシステムも考えられ、電子カルテおよびDPCが登場しました。企業団の拠点病院においても、ここ数年で導入を完了し、今ではそのデータの分析が行われ、各病院の医療の質と経営状況が手に取るようにわかってきました。同時に、ほかの病院との比較が可能になったことで、自院がどこに位置しているかが分かるようになり、各地域での拠点病院

の役割も見えてきました。

■令和時代に向けて

このような状況下で、長崎県病院企業団は、令和最初の10年をどう生き抜くかが問われています。

各拠点病院の患者減による経常収支の悪化が起り始めています。特に顕著なのは、出生数減少に伴う周産期医療の縮小による収入減です。また高齢者を対象とした医療も同じです。収入を増やすのではなく、支出を抑えることで、経営を安定させる知恵を出さないといけない状況になっています。

一方、看護師の夜勤回数が月8回を超えてし

まうといった職場環境の悪化や、病院給食直営化に表れているような人材不足などの課題が浮き彫りになっています。もはや手をこまねいて見ている状況ではなく、新しいシステムを使って、医療の質の低下を最小限にとどめ、効率的な病院経営を模索しないとけません。

そこで、今年度は外国からの人材登用を、来年4月には地域連携への運営を行います。国主導の地域医療構想に沿って、病床機能の適正化に向けて、各地域で調整することも必要でしょう。いずれにせよ、これからの10年も改革の波が押し寄せてくることは想像に難くありません。離島だからと言って、病院改革が必要ないということはありません。ひるまず新たな改革を先に進めていく勇氣を持ちましょう。

■鍵は「人材育成」

いつの時代も組織の最重要課題は、いかに人材育成に力を注ぐかです。次の10年も、人材育成にこれまで以上に努力していきます。医師に関しては新専門医制度に見られるように、国レベルのシステムが出来上がりました。医師以外の分野については、病院企業団内に新しいシステムを作っていきます。人材育成は、医療の質の低下を防ぐと同時に、医療事故防止対策につながります。また、医療人材不足や病院経営にも貢献します。人材育成が、人口減少をとどめることができな

い地域の救世主になると信じています。

ワークショップ in 上五島

長崎県医療人材対策室主催のイベント、「ワークショップ in 上五島」が8月22日～24日の3日間で行われました。

医学部に通う学生が毎年各離島を回り、地域体験学習や地域住民とのコミュニケーションを経てワークショップを行い、将来離島での勤務に興味を持ってもらうイベントです。

今年も70名を超える学生に参加いただき、上五島の地域性や医療状況を学び、夜は懇親会やバーベキューで学生同士、また先輩医師等と親睦を深めました。地域住民の皆さんとの座談会では、実際に医療を受けている方の率直な意見を聞くことが出来ました。



←実際に離島で働く医師から離島勤務についての講義を受けました。



↑参加している学生と地域住民との座談会では地域住民の方をお招きし、医療に関して困っていることや離島での生活のことなど様々なこととお話いただきました。

→懇親会には参加者のほかに新上五島町長をお招きし、親睦を深めました。



Zoom up!

特集①

ကျွန်ုပ်တို့သည် ဂျပန်

ようこそ、日本へ！

長崎県上五島病院に
ミャンマー技能実習生の
新しい仲間が増えました！

○外国人技能実習制度の概要○

外国人技能実習制度は、1960年代後半頃から海外の現地法人などの社員教育として行われていた研修制度が評価され、これを原型として1993年に制度化された歴史ある制度です。

技能実習制度の目的・趣旨は、我が国で培われた技能、技術又は知識（以下「技能等」という。）の開発途上地域等への移転を図り、当該開発途上地域等の経済発展を担う「人づくり」に寄与するという、「国際協力の推進」です。

技能実習制度の内容は、外国人の技能実習生が、日本において企業や個人事業主等の実習実施者と雇用関係を結び、出身国において修得が困難な技能等の修得・習熟・熟達を図るものです。期間は最長5年とされ、技能等の修得は、技能実習計画に基づいて行われます。

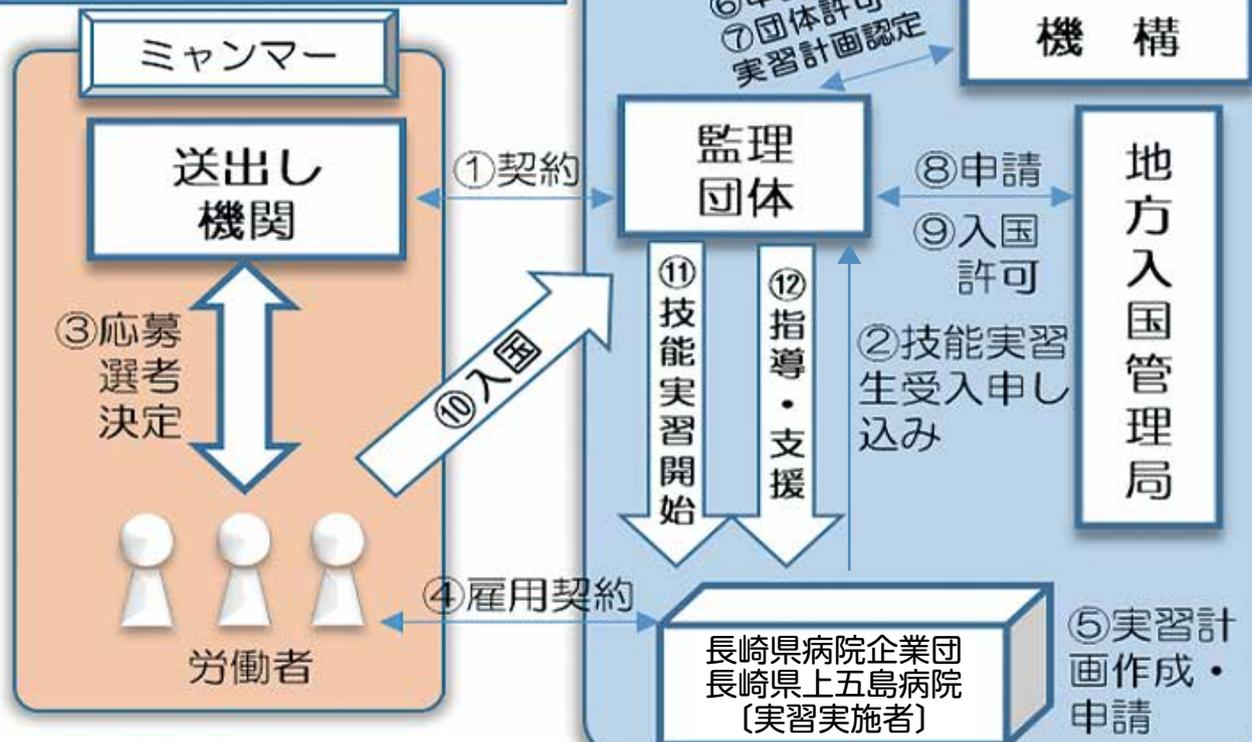


8月1日に辞令交付を受けた実習生（左から、ススマーさん、ウィンサンダーさん、ニンワットイーさん。）

<引用元>

公益財団法人 国際研修協力機構「外国人技能実習制度とは」
<https://www.jitco.or.jp/ja/regulation/>

技能実習制度の仕組み ～団体監理型～



<引用元>

厚生労働省ホームページ「外国人技能実習制度について」
<https://www.mhlw.go.jp/content/000554059.pdf>



実習開始から2か月が経ち、上五島でも生活（環境）や業務にも慣れてきたところです。常に、明るい笑顔と純粋な心で対応する3人に、医療に関わりものとしての基本姿勢を思いださせてもらいました。3人の目標達成に向けて、職員全員で支援を行っています！
長崎県上五島病院
頭島看護部長



上五島病院5階病棟（地域包括ケア病棟）で実習に励む実習生

○ミャンマーってどんな国？ 



- ・国名称：ミャンマー連邦共和国
- ・位置：東南アジアのインドシナ半島西部に位置する共和制国家。
日本との距離は約4,500km。
※成田からヤンゴンまでは、飛行機で約8時間
- ・面積：約67万km²（日本の約1.8倍）
- ・通貨：「チャット」
- ・人口：5,142万人（2014年）
- ・首都：ネピドー（最大都市はヤンゴン）

○Let's communication（ミャンマー語で話してみよう！）

ミンガラーパー
（こんにちは）

チェイスーティンバーデー
（ありがとうございます）

トゥワドーメーノー
（さようなら）

ナウツマートエチャーデーターボ
（またお会いしましょう）



ホッパーデー/マホッパー
（はい/いいえ）

タウンパンバーデー
（ごめんなさい）

ネーカウンイェラー
（お元気ですか）

ティツ、ニツ、トワン、レイ、ンガー
（1、2、3、4、5）

郷

診

郷

創

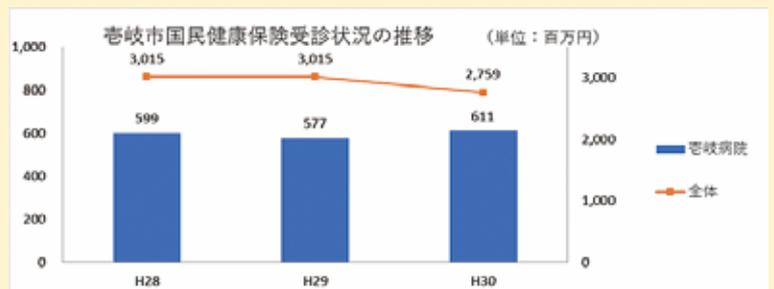
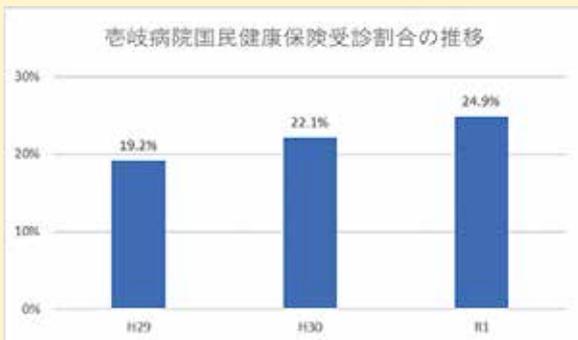
吉岐病院の取組についてご紹介します！

国民健康保険の島内受診状況を見ると、吉岐病院の割合は少しずつ上昇しています。

これは、できるだけ島内で受診できる診療体制づくりを進めてきた当院の取り組みが次第に市民に浸透してきたものと考えています。

今年度からは病院目標として新たに『予防医療の推進』掲げており、健診の受入体制の充実を図るとともに院内だけでなく吉岐市とも協力して受診率の向上に向けて取り組んでいます。

また、化学療法の受入拡充や緩和ケアの充実など更なる医療の質の向上を図り、郷診郷創を進めているところです。



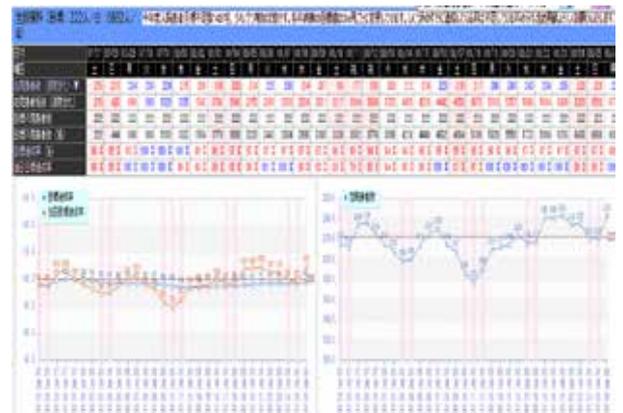
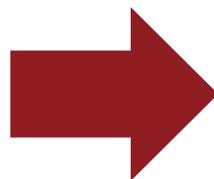
令和元年度 長崎県吉岐病院における郷診郷創の取り組み (抜粋)

健診受診率向上	二次健診（大腸検査）の受診率向上。検診室、内視鏡室、外来にポスター掲示、要精査後の受診案内を行う
化学療法の受け入れ拡大	受け入れ態勢を強化し、化学療法の受け入れ患者数を増加させる
緩和ケアの介入の充実	患者の意向に沿った終末期医療の関わりを持ち、在宅医療と連携し一時退院のサポートを行う

ちょっといい話

『島原病院経営目標達成状況のみえる化』

島原病院では本年度より本格的にイントラネットを活用し、経営目標の達成状況(日々の各病棟・各科入院患者数、外来受入患者数)等について周知を行っています。院長からのタイムリーなメッセージも更新されており、職員全員が経営について参照したい時にいつでも電子カルテ・ポータルサイトより閲覧可能で、日々の業務に邁進することができております。



Zoom up!

特集②

第41回 長崎県地域医療研究会

今年も地域医療研究会が、10月12日～10月13日にかけて、長崎ブリックホール（長崎市）で開催されました。

今回は、「**伝統と改革**」をテーマに、企業団病院関係者 約250名が参集し、演題・講演・シンポジウムなど充実した内容となりました。



▲会場の様子

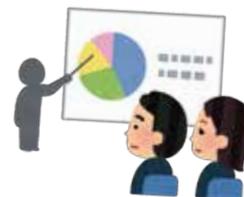


▼一般演題 第4群



▲村瀬会長の基調講演

▲一般演題 第1群



シンポジウム①

「データを活用した経営改善・医療の質向上への取り組み ～これからの事務職員に求められるもの～」



シンポジウム②

「医療人材の確保と育成について」

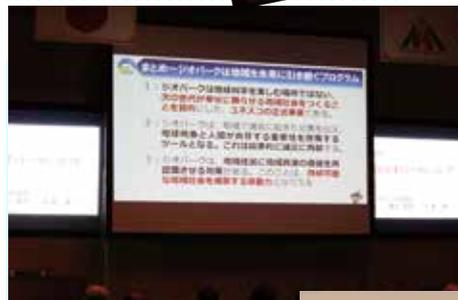


特別講演



「災害とジオパークについて」

特別講演は島原半島ジオパーク協議会の 大野 希一（おおの まれかず）理学博士に世界ジオパークである島原半島のお話やジオパークの役割をお話いただきました。



次回の開催は
令和2年10月10日・11日

幹事病院は精神医療センターです

～Break Time～

『 A 4 の 話 』

今回は、A4 のお話です。A4 やA5 と聞いて高級和牛肉を思い浮かべる人は、食いしん坊の方が企業団本部で一番肉好きのTMYさんぐらいだと思います。そうです、A4 とは用紙のサイズのことです。

どうして、A4 版の用紙の話をするかというと、今年の6月17日に企業団新規採用職員研修があり、私が「職業人として公務員としての心得」をテーマとして講演を行いました。その資料を作成する際、自分が県庁に入った昭和62年当時の新規採用職員の研修を思い出し、その時のテキストが見つかりました。下の写真で大きさが分かるかと思いますが、企業団のパンフレットがA4版、私が研修を受けた時の「新職員のしおり」がB5版です。お分かりの通り、昭和の時代はA版ではなくB版が主流でしたが、平成5年頃から国際規格であるA版化が始まり、行政文書もA版化されました。

ここで、A版とB版の違いについて説明したいと思います。A版は国際規格サイズで、面積が1㎡のルート長方形(縦:横=1:√2の長方形で、どこまで半分にしても同じ形になる長方形のこと)をA0(841×1,189mm)として、それを半分にするとA1、そのまた半分がA2となり、同じようにA3、A4、A5となります。つまり数字が増えるごとに面積は半分になります。また、B版は日本独自規格サイズで、面積が1.5㎡のルート長方形をB0(1,030×1,456mm)とし、先ほどと同じように、半分にするとB1、そのまた半分がB2となり、同じようにB3、B4、B5となります。お分かりのとおり元の紙の大きさがAよりBが大きいので、同じ数字であるA4とB4を比べるとB4の方が大きくなります。

平成5年以前は、B版が行政文書の正式規格で、B5版は主に鑑文書等に使用され、B4版は表などに使用されていました。しかし、それを全て原則としてA4版に変更するという政府の方針転換がありました。特に苦労したのが、B4版の資料をA4版に縮小する作業です。縮小コピーすればいいじゃないかと思われるかもしれませんが、字が小さくなるということで、内容や項目をコンパクト化することが必要となりました。また、収納する棚については、B4版は横書きが主流だったので高さはB5版縦と同じ高さ(257mm)になりますが、A4版は縦置き(297mm)なので高さが足りず入らないという事態が生じ、収納スペースの確保にも苦労したことを覚えています。

令和の時代になり、昭和で使われていたB版を知る人がだんだん減ることは悲しい限りです。

(文:副企業長 上田 彰二)



編集後記

ふくよかの編集担当も2年目になりました。慣れというのは怖いもので当初はいろいろ考えながら編集をしていたもののある程度慣れてくると手を抜いてしまいそうになりますが、そこは思考を停止しないようにと心掛けています。

何事も初心を忘れがちなので常に新鮮な気持ちで望みたいところです。

季節の変わり目は体調を崩しやすいので体調には気を付けて令和元年の残りも頑張りましょう!

(ふくよか編集担当)

ふくよか

「ふくよか」の由来

医療人として患者さんに寄り添った会話が自然と出てくるような能力を付けて欲しいとの企業長からの願いが込められています。

令和元年10月発行

編集・発行/長崎県病院企業団本部

〒850-0035 長崎市元船町17-1 長崎県大波止ビル7階

TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759

E-mail: honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp

URL: <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>

上記メールアドレスに記事についてのご意見・ご感想を
どんどんお寄せください!



長崎県病院企業団

検索